

研究・調査報告書

報告書番号	担当
175	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Does solitary substance use increase adolescents' risk for poor psychosocial and behavioral outcomes? A 9-year longitudinal study comparing solitary and social users. 単独の薬物使用により青年の社会心理学的転機および行動転機は悪くなる危険性があるのか？薬物の単独使用者と社交場でのみの使用者を比べた9年間の縦断研究</p>	
執筆者	
Tucker JS, Ellickson PL, Collins RL, Klein DJ.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Psychol Addict Behav. 2006 Dec;20(4):363-72.	
キーワード	
薬物使用、それ1個のみの使用、青年、若年者、縦断	
<p>要 旨</p> <p>この縦断研究は8年生のタバコ(n=541)アルコール(n=577)マリファナ (n=148)単独使用する若者それぞれと、こうした物質を社交の場でしか使用しない若者(n=それぞれ 562,1426,388)で、青年期の能力や若年成人になった際の転機について比べたものである。8年生では、こうした物質の単独使用者は社交の場でしか使用しない者に比べ、薬物のもたらす影響を楽観視し、成績が低く、社会から逸脱した行動をすることも多く、学校に行く時間は少なく、社会活動に費やす時間が長い者が多かった。23歳までの追跡では、こうした物質の単独使用者は社交の場でしか使用しない者に比べて低学歴であり、主観的健康度が低く、薬物使用に関してより大きな問題を抱えていた。この結果より、危険性は高いがあまり研究されていない、こうしたハイリスクの若者集団についてさらに理解する大切さと評価する必要性が示された。</p>	